

幡中だより

あやめ

～since 1999～

第313号

令和7年7月8日
瀬戸市立幡山中学校



東京タワー!?命のはじまりってそんなに大きくなるの?

～PTA 教養講座より～

瀬戸市立幡山中学校長 梶田 明敬

夏休みまで、いよいよあと10日ほどとなりました。梅雨も明け、ギラギラと照りつける太陽のもと、朝から子どもたちは顔を赤らめ、汗をかきながら登校してきます。昔は扇風機だけで何とかしのいでいたのですが、今では教室にエアコンが整備されており、教室にさえ入ればひと安心。ありがたい環境だと感じます。

さて、6月15日(土)に、PTA主催の教養講座が開かれました。タイトルは、

「大切にしたいココロとカラダ」～自分をまもる力と、命のつながりを知ろう～

今回は現役の助産師さんを講師としてお招きし、子どもたちにも分かりやすく、楽しく学べる内容でお話いただきました。

1992(平成4)年は「性教育元年」と呼ばれ、小学校における性教育が本格的にスタートした年です。瀬戸市内でも早くから積極的に取り組まれており、私自身も小学校2年生の授業参観で性教育を実施した経験があります。「性教育はいつから始めるべきか」という議論は今なお続いているのですが、今回の講座では、年齢に応じた無理のない形で、子どもたちが自然に命の大切さを学べる内容が展開されました。

講座のはじめは、生命の誕生の話から始まりました。お母さんのおなかの中で過ごす10か月の赤ちゃんの成長を、実際の大きさ・重さの人形を使って体感することで、子どもたちは命の重みを実感していました。特に、約3000グラムの人形を抱いた時に聞こえた「おも～い!」という声には、こちら思わず笑顔に。期待通りの反応に加え、子どもたちの素直な感動が伝わる場面でした。

また、受精卵をリンゴにたとえ、生まれるころにはどれくらいの大きくなるかというクイズでは、答えが「東京タワー」! 約5千倍になることに、子どもたちから驚きの声があがりました。

こうして生まれてきた命を、今度は自分自身で大切にしていこうことの重要性についても学びました。成長段階に応じた具体的な事例をもとにしたお話や、性に関する病気の予防を簡単な実験を交えながら学ぶなど、幼少期から思春期にかけての子どもたちが、生き生きと「自分自身」について学べる、貴重であたたかな時間となりました。

本校では、全学年で性教育に取り組んでいます。ぜひこれをきっかけに、ご家庭でも、命や心、からだについて話し合ってみてはいかがでしょうか。



3年生 修学旅行

6月3日(火)～5日(木) 千葉・東京・長野方面
テーマ **No Limit** ～最高の3日間にしよう～

体育祭の熱気も冷めやらぬ翌週、3年生は4台のバスに分乗し、関東方面へ修学旅行に出かけてきました。初日は終日、雨天の中での活動となりましたが、そこは楽しみにしていたテーマパークです。仲間と笑顔で過ごす生徒の姿が多く見られました。

2日目の都内班別行動は各々の計画に従い、施設見学や名物の食べ歩きを楽しみました。3日目は信州の高原で牧場体験とバーベキューを堪能し、帰路に着きました。



1年生・1組 瀬戸つばき特別支援学校 交流会

6月11日(水) 午前
瀬戸つばき特別支援学校

今年度も、1年生と1組生徒が南山口町にある「瀬戸つばき特別支援学校」へ出かけ、中学部の生徒との交流会を行いました。自己紹介やゲームを通して打ち解け、活発に交流する生徒の姿が見られました。次回は1月に幡山中学校で行います。



中総体 瀬戸・尾張旭地区大会

6月28日(土)～

3年生にとっては最後の大会となる地区予選大会が、先月末から本格的に始まりました。本校の生徒は部活動を中心に、延べ12種目に出場しています。すでに上位大会への出場を決めたチームもあります。残念ながら敗退となってしまった選手・チームもありますが、努力を続けてきたことは、今後の人生の糧となることでしょう。

7月からは文化部のコンクールも始まります。引き続き、応援をお願いいたします。

